

キャラクター名 へびがみさま	プレイヤー名
-------------------	--------

シンドローム	キュマイラ	ワークス	レネグイドビーイングC	カヴァー	
	エグザイル				
オプション		年齢	ちょうながい	性別	♂
覚醒	無知	衝動	闘争	初期侵食率	40%
出自	旧き記憶	経験	喪失	邂逅	慕情

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	31
肉体	5	0	0			5	行動値	3
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	3
精神	0	1	0			1	戦闘移動	8
社会	2	0	0			2	全力移動	16

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	1		交渉	1	
回避			知覚	1		意志	1		調達		
運転:			芸術:			知識:			情報:	UGN	1
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
	白兵	8r				8dx8
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品		合計装甲:	0	合計回避:	0
ロイス					
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイムス	消費	
守護者	P	N			
蛇巫女"クシナ"	P 慕情	N 偏愛			
村の人々	P 庇護	N 恐怖			
ハナ	P 庇護	N 不安			
	P	N			
	P	N			
	P	N			
最大財産P:	4	残り財産P:			

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
オリジン:アニマル	1	3	マイナー	至近	自身	自動		
効果: シーン間素手の攻撃力+[LV*2]する、エフェクトの効果中素手以外のアイテムの使用装備不可								
ヒューマンズネイバー	1		常時	至近	自身	自動		
効果: 衝動判定のダイス+Lv個								
竜鱗	3	3	リアクション	至近	自身	自動		
効果: リアクション放棄。装甲値+[LV*10]								
衝撃相殺	3		常時	至近	自身	自動		
効果: 《竜鱗》を使用したメインプロセス間ダメージ-[Lv*5]								
破壊の爪	1	3	マイナー	至近	自身	自動		
効果: 素手のデータを変更。								
完全獣化	1	6	マイナー	至近	自身	自動		
効果: 【肉体】の判定のダイス+[LV+2]個								
コンセントレイト:エグザイル	2	2	メジャー					
効果:								
伸縮腕	3	2	メジャー	視界		対決		
効果: このエフェクトを組み合わせた白兵攻撃の射程を視界にする。判定のダイス-[3-LV]個								
死神の手	3	4	メジャー			対決	80%	
効果: 組み合わせた攻撃の攻撃力+[LV*4]。素手と骨の銃限定。								
体型維持	★							
効果:								
熱感知知覚	★							
効果:								
効果:								
効果:								

赤比奈村で土着信仰されているレネグイドビーイングの蛇神。
 遙か昔、それこそ神へと成る前の蟒蛇の化生だった頃に交わしたある一人の女性との約束
 「私の愛した、この村と、子供たちを守って。」
 彼女の名も貌も香りも忘れてしまったが、鈴のような声だけは覚えていた。
 その女性との約束を守るため、今を生きる彼女の子らである赤比奈の住人を守るため、蛇神は日常の守護者であり続ける。

むかしむかし、まだ人と神の境が明確にわがたれていなかったころ、
 とある山の大きな滝つぼにそれはそれは巨大なうわばみの化物がいたそう。
 その化物は自身が生きるのに必要な分の命しか奪わず、静かに暮らしていた。
 ある日、うわばみの所へ一人の少女が迷いこんできた。
 足を怪我した少女を手厚く介抱し、翌日には村へと返してやった。
 その少女の名は「クシナ」といった。
 それからクシナとの交流は続いていき、他の村人からはクシナは蛇巫女と呼ばれるようになった。
 数年がたったある日クシナから言われた一言 「私、結婚するの。」
 相手は村の他の住人だった。 そのときうわばみの初恋が始まる前に終わった。この気持ちが恋であると気づくことはこの先もなかった。
 「私の愛した、この村と、子供たちを守って。」
 その時に続けて言われた祝詞とも呪縛ともなったことば。その祈りによって神格を得たうわばみはクシナを、クシナの村を守り続けた。
 あるときは大きな天災から、あるときは他の化生から、あるときは戦の戦火から、あるときは権力者の侵略から
 その大きな体を盾にして。
 クシナが亡くなったあともずっとずっとうわばみは守り続けた、あらゆる害を一身に受け止め、その身を傷つけながら。